

中高生対象に講演会

熊本大理系学部 女子も待っています

熊本大(熊本市中央区)は7月下旬、女性が少ない理系分野に興味を持ってもらおうと、女子中高生を対象に講演会を開いた。同大の女子大学院生ら6人が、理系を志した理由や研究のやりがいを紹介。参加者は理系の世界を身近に感じた。

全国的に理系学部に進学する女性の割合は少なく、同大では理学部25%、工学部17%、薬学部48%(いずれも2017年度)。理系の女性教員も1/2割にとどまる。講演会はこうした状況を改善する狙いで、約160人が参加した。

大学院自然科学教育部の山崎菜々さん(23)は、理系学部に進んだ理由を「数学が好きだったから」と説明。地層の

研究のやりがい

大学院生ら紹介

化石などから地球環境を調べる研究を紹介し、「数学が好きでも、やりたいことが見つからなくて苦労した。オープンキャンパスなどのイベントに参加し、視野を広げてほしい」とエール。さらに「論文を読んだり、書いたりする時に英語は欠かせない。理系でも、英語の力を身に付けることが大事」と語った。

大学院生命科学研究部の友岡史沙さん(36)は高校時代、文系科目が得意だったにもかかわらず、将来を見据えて理系クラスを選んだエピソードを披露。「得意科目は、仕事の専門性の中で生きてくる。得意かどうかは縛られず、進路を選択してほしい」と呼び掛

けた。

設計やデザインの仕事に興味があるという第一高2年の林田望希さんは「女性でも大学で活躍できることを知り、勉強のやる気がでた」。自然科学教育部の町田正人副教育部長(56)は「研究の分野では、技術だけでなく女性の新しい発想が求められている。性別を気にせず、興味を突き詰めてほしい」と話していた。

性別気にせず

興味突き詰めて

中高生からは「薬剤師になりたいが、理科が苦手。どうすれば得意になるか」など活発な質問が出た。

製薬会社の研究者として働く予定の前田有紀さん(27)は「大学院薬学教育部には「暗記しなきゃ」と考えるより、まず理科に興味を持つことが大事。自分が飲んだ薬がなぜ体に効くのかなど、考えてみて」とアドバイスした。

(臼杵大介)



理系を志した理由や、研究のやりがいについて講演する熊本大の女子大学院生(熊本市中央区)



熊本大の理系学部OGや、理系の女子大学院生の講演に耳を傾ける参加者ら